

発行所 鹿児島市鴨池新町1の7
鹿児島社会福祉センター内
鹿児島白百合福祉会
発行人 黒武者 キミ子
編集 上山 満子
上村 トシ
印刷 有限会社ジャブラン
下流田丁目1番10号 ☎54-3011



秩父の宮妃御歌
荒き世の
風に堪えつ、
手ひとつに
子を育てゆく
母に幸あれ

発刊のごあいさつ

鹿児島白百合福祉会会長
理事長 黒武者 キミ子



を発刊いたしましたところ、各方面に大変な反響をよんで多くの方々から激励と賛同をいただいております。これは又、同じく記念事業として会報を発行する事になりました。『会報』は、会員みなさんの、心と心を結ぶ広場とします事を念じて、発刊のごあいさつといたします。

鹿児島白百合福祉会が結成されてから、早や二十五周年を迎えようとしております。結成当時の事を、元事務局長野村しげる先生は、「私たちの歌が聞こえる」の中に、「矢留末子母子係長が先頭に立って、二十八年五月、県内各市郡会長を集めて、県内の母子家庭の窮状を切々と述べられました。母子福祉協議会を結成すべく指導をされ、出会者全員賛同し、準備委員会を設けて、市郡会長がこれに当り、その後二、三度会合を持ち、二十九年五月十五日各市町村の会長が、山下町千歳旅館の大広間の会場に集り結成いたしました。戦後九年目ではありましたが、まだまだ経済面での立ち直りが出来ず、みんなの顔色も服装も灰色でした。しかし意気盛んで自分達の会作りには熱意がありました。それから二十五、先輩の方々の努力の積み重ねが実って、国や県における母子福祉制度や施策がいろいろ出来る時代も大きく変わり、役員も会員も大部分入れ替りました。そして二十五周年を迎えるに当り、記念事業の一つとして、去る七月、母と子の文集「私たちの歌が聞こえる」

活動目標

一、基本方針
母子世帯、寡婦の幸せを探索し、県内各市町村母子福祉会の連絡調整を計り、その健全な活動を促進し、母子家庭、寡婦の福祉を増進するため努力する。

五十三年度活動計画

月	主 な 行 事
4	
5	母の日ハンカチ販売 お母さん旅行(高野山・奈良方面) 市町村幹部研修会(婦人会館)
6	
7	市町村会長会(福祉センター)
8	母と子の中央交歓会(市少年自然の家) 母と子の地区交歓会
9	フクシ展示会(翠園閣) 九州地区大会(別府市)
10	市町村会長会(福祉センター)
11	母と子の運動会(鴨池競技場)
12	母子家庭リーダー研修会
1	着付講習会(婦人会館)
2	母子寡婦福祉大会
3	母子、父子家庭入学児へ祝品贈呈
年間	特別相談事業
4	寡婦生きがい対策事業

- 一、努力点
- (一) 市町村の組織の強化と活動の活発化を促進する。
 - (二) 母子家庭の加入促進と母子部会の育成発展
 - (三) 地域グループ(部落・校区)の育成指導
 - (四) きめこまかな母子寡婦福祉を推進し、母子家庭、寡婦の生活の充実に向上をはかる
 - (五) 母子寡婦貸付金、たすけあい資金の周知と活用
 - (六) 相談業務の推進
 - (七) 母子寡婦福祉制度の充実
 - (八) 医療費の公費負担
 - (九) 私立高校を含めた高校授業料の減免
 - (十) 母子世帯介護人派遣制度をひとり暮らしの寡婦まで拡大する
 - (十一) 母子寡婦家庭の自立更生と、生活を明るくする事に努力する。
 - (十二) 寡婦の生きがいの探究と対策。
- 事業計画
(12月以降の主なもの)
○着物着付講習会11月22日、26日、2月5日・9日。社会福祉センター7階和室。

「私たちの歌が聞こえる」を刊行

白百合福祉会創設25周年記念事業

反響よぶ、母と子の苦闘の記録 10,000部突破

私たちの歌が聞こえる」 発刊について

鹿児島白百合福祉会では、創設二十五周年を記念して文集「私たちの歌が聞こえる」をジャブラン社より刊行いたしました。母子寡婦家庭のこれまでの苦闘や哀しみ、希望やよろこびといったものを多くの方々に書いていただき、白百合会員の家庭の実態を広く知っていただく、そして、その母と子の心を支えよう、という趣旨のもとに実現したものです。

私たちの呼びかけに対して県内各地より百六十編もの手記が寄せられました。それの中には、句読点のうつつもないものや、字もろくに書けないようなものも含まれており、また、泣きながら書いている県下各地の会長様はじいさんであるかと思われ、御報告いたします。

白百合会の会員の方で、まだお買求めいただいておられない方は、お早目にお申し込みください。

■定価 八百四十円 ■送料 五冊以上の時はこちらで負担いたしますので、送料はおりません。
一冊 二百六十円、二冊 二百円、三冊 二百円、四冊 二百四十円、五冊 二百四十円、六冊 二百四十円、七冊 二百四十円、八冊 二百四十円、九冊 二百四十円、十冊 二百四十円、十一冊 二百四十円、十二冊 二百四十円、十三冊 二百四十円、十四冊 二百四十円、十五冊 二百四十円、十六冊 二百四十円、十七冊 二百四十円、十八冊 二百四十円、十九冊 二百四十円、二十冊 二百四十円、二十冊以上先、各地区白百合福祉会会長



「医療費公費負担」経過報告

川内市白百合福祉社会会長 上村 トシ

この問題については、九州で取り組む事になりました。地区大会や全国大会でも数年前から取り上げられ、既に17道府県が実施中とされています。私達鹿児島県でも、市町村で取り上げるよう運動を進めることに致しました。然し努力の足りなさもあってなかなか困難をきわめ、52年4月で県下96市町村中僅か2市3町にすぎませんでした。そこで53年2月県母子福祉福祉大会でこの件について実現を期す為の決議をされた。県下一斉に組織をあげ

らに明るい明日がひらかれるように祈ります。皆に感謝いたします。

賑った運動会

2,600人が参加

第七回を迎えて鹿児島県母子福祉大運動会は去る十一月十二日県陸上競技場において挙行された。折悪しく前日から雨模様、天気だったが天祐の下、絶好の日となった会場には県下各地より二千六百名を越える仲間が参加してぎやかにスポーツ絵巻を繰り広げた。子を背負って走る母や父の姿。背丈のびた我が子にすがりつくようにして走る母の姿。この親子たちにさ



県の子育てでは先頃の市町村長会にこれを陳情し、ひいては県の段階で実施して貰う様に運動致し、県に陳情の予定にしています。

この実施により母子家庭の組織への加入も増加しつつ御座います。

その中52年12月の議会傍聴に行きました時、この問題が取り上げられ、採択と決定し、時の喜びは、我が事の様に傍聴にも度々行ったり致しました。

そして県下第一番目の実施町の入来町から参考資料をいただいたり、又他市町村にお聞きして下さる等、懸命に取り込んでいただきました。

この間所長さんにも議会等に於ての風当りもおどかさなり、後一息という処迄多くつきました。

らに明るい明日がひらかれるように祈ります。皆に感謝いたします。

「母子会」新聞 発刊に思う

児玉 ツギノ

「私たちの歌が聞こえる」につづいて母子会新聞が発行される。とてもうれしに思っています。朝土思っていることが活字になるという事は、皆さんと心のふれ合いがでし、ということだと思います。紙面を通じて話しかけ、また、話しかけられる。いつもご無沙汰をしています、これも新しい事、いろいろな事、時には悲しい事、いろいろな事、時には出るようになる、福社の向上によって、種々の施策がなされて参りました。ありがとうございます。しかし、未端社会におきましては、まだまだその日の生活に追いつかない、福祉施策がどんなものか、いや、福祉制度そのものの存在すら知らない

一人でも多くの方々に知っていただきたいと願っています。一人でも多くの方々に知っていただきたいと願っています。一人でも多くの方々に知っていただきたいと願っています。一人でも多くの方々に知っていただきたいと願っています。

「私たちの歌が聞こえる」の感動

石神 岩雄

白百合福祉会の皆様「私たちの歌が聞こえる」ありがとさんが住んでいました。その頃うございました。女手一つはもろろん母子家庭に対する幾多の困難を乗り越え、ある福祉制度などはありません、方々は死線を越えていく、その間に米や甘藷の供出、道路の見出しておられる皆様の「苦」に労を分けていただき、道沿いの記録に接し、筆舌につくれない感動が打たれました。私の父は、やはり、女手一つの口を賄うだけでもせい、で育てられました。三人兄弟、ばいというところに、容赦なくで兄が十一歳、自分が七歳、い無理押し。行き詰ったお妹が三歳——のときに父親とばさんはたまたび私の父に相死別しました。父はその頃の談に來りた、やはり女祖母の苦勞をよく私たちに話手一つで育てられ、女世帯の苦勞を身にしみて知っている父です。ある時は、たき物を採ってやったり、また、

田んぼ仕事にも力になっていました。手伝いから帰った父は「人のくらしは相負互いだ。女世帯は皆んなで助けてやらなければ」と口ぐせのように話してました。その後、おばさんの子供さん、おばさんそれぞれに成長され子育ての責任を果したおばさんはいま何不自由なく暮らしております。

「私たちの歌が聞こえる」を読みます。数々の苦悶を乗り越えて、ついに光を見出し、皆様の強い精神と美しい人間愛に深い敬意をささげると共に、一層の御自愛を祈ります。私たちの歌が聞こえる——ほんとうにありがとございます。(市来町川上)

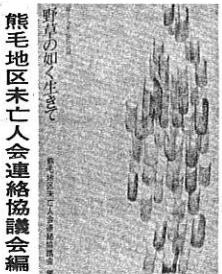
感動を呼ぶ！ジャプランの本2冊!!

鹿児島白百合福祉会編 私たちの歌が聞こえる

鹿児島白百合福祉会編 私たちの歌が聞こえる



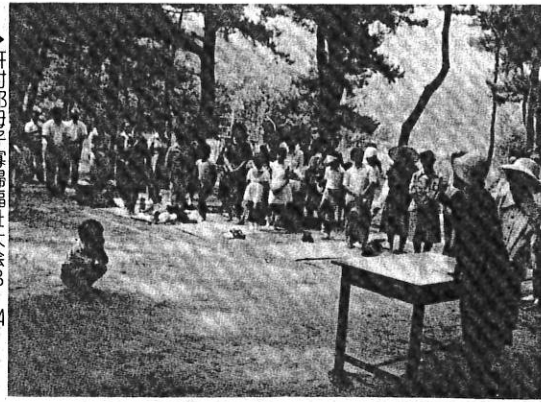
野草の如く生きて



愛する人を亡くしてしまふ。たまたた人を亡くしてしまふ。その悲しみが深ければ深いほど、新たな道を歩み始めることは難しい……だが、やがて努力が、血の涙が、蕾をくわいしつることをおこたらなかつたその魂が、少しずつ少しくづ暗闇に火をともし、本土とはまた違う離島におけるやさしく、たくましい母子の姿を浮きぼりにした感動の書!!

あなたの本づくりのお手伝いをいたします。企画の段階から原稿作成・編集・装丁・デザイン・校正・印刷・製本にいたるいっさいについて真心でお世話申し上げます。

各地区母子会活動アルバム



▶肝付郡母子会福祉大会8・24
佐多公民館 参加者五〇〇人

▼日置郡母子交歓会
吹上海岸



▲始良・伊佐郡母子団体スポーツ大会
5・21
牧園町 参加者350名

文芸

短歌

八千草の繁れる中に木屑の
香り漂ふ君亡き庭に

菱刈町 有馬 光子

夏休みの思い出

六年 徳丸 一江
(串良町)

私が一番心に残っているのは、七月二十四日の佐多であった。母子会福祉大会並びにスポーツ大会です。午前中は、子女を立派に養育される、かたわら、永年に巨り町未亡人役員として貢献された方七人の表彰式があった。それから、役所の人たちの話やわらひ話・歌などあつた。どことなく面白かつたのは、大根占のおぼさんたちだった。午後にはスポーツ大会。最初は、小学一年生から中学生までの100メートル走。私は足がのろくて、一番後からかぞえて三番でした。でも、賞品はみんな同じ物だったのうれいでした。次は、風船割り。私は、思ったとおりで割れないだらうと思つたけど、二回目割れました。みんながなげばつたので、串良町は二番でした。次は、六十才以上の玉入れ。これは祖母も出場しました。なかなかはいらないようすです。でもみんなよくはいつた。串良町は、二番でした。次は親子レレー。私は出場しませんでした。一回目はどこの人が、「いんちきをしな」といつて二回走らされま

盛り上がる離島の姿

黒武者 きみ子

果てしなく広がる青い青い太平洋の中に、濃緑の亜熱帯の草木の生い茂る大島の島々、の強いお力添えによって、離島も全町村結成されて、親しくお会いして語つた事が、昨日の事のようになつかしく思い出されます。

昨日から今年にかけて、名瀬市を皮切りに大島本島、徳之島、喜界島、飫島の各町村白百合会が、次々に結成されて、そのお手伝いに出向いたのです。

本土では、県白百合会が結成されてから、二十五周年を迎えようとしておりますのに、いろいろな事情で、離島は未結成の所が多く何とかなければと話しながらも、私達の手が届かなくてはならない、考え続けておりました。

所が昨年九月からの、介護

という言葉がありますが、結成後の島の方々の意気込みは、研修旅費の事や医療費の公費に、この言葉の通りである、負担も考えますよ」と、力強く、はじめてさしこんだ言葉の光を、存分に吸い込んだ。又徳之島では、母子会取ろう、当たらせようと、行の地区交歓会が、今年予算政と一体になって組織の充実の割当てがなかつたので、自

分達で出しかつて実施しようという事になったそうです。大島郡のある村では、船や飛行機の切符を買って送り、大島郡の半分しか予算はないの、それを四ヶ村で分けて不足分は自分達で出している等、皆さんの盛りの姿に頭の下る思いがいたします。

離島の方々にくらべたら、恵まれた環境にいて、結成後二十五年もなろうという時、本土の私達の取りくみは、これでは祖母も出場しました。考えてみたいものであります。ともあれ、一町を除き、県下の全市町村が足並みを揃えて、スクラムを組み、幸せを求めて力強く踏み出す事の出来ました事は、ナジな喜びであります。

編集後記

新聞発行の予定日が大幅におくれたことをお詫びいたします。なお各地より多数の原稿をお寄せいただきありがとうございます。紙面の都合で掲載できなかった分は御しうございませぬ。何分初めの編集で戸惑いながらの作業でした。

(上山、上村)

価値ある実用呉服をより安く!!

フクシ株式会社

(本社) 大阪市住吉区帝塚山西2-5
06 (672) 0225
(九州出張所) 福岡市博多区下呉服町1-9
092 (281) 4800

弊社は日本最大の総合繊維メーカー「ユニチカ」と全国未亡人団体が直接手を結んだ母子会の作った会社です。

フクシは常々皆様
に少しでもお安く
ご斡旋出来る様、
あらゆる機構を改
革し日々努力致し
ております。